

# ニュースレター

NO. 72

発行 / NPO 法人市民活動サポートセンターいなぎ  
 事務局 / 〒 206-0802 稲城市東長沼 2112-1  
 稲城市地域振興プラザ 1F  
 TEL 042-378-2112 FAX 042-378-6971  
 E-mail : info@i-inagi-support.org  
 http : //www.i-inagi-support.org/

## 市職員が市民活動の現場を体験 ～市民協働研修を行いました～



稲城市が目指す「協働のまちづくり」を実践していくため、市職員が市民活動の現場を直接体験することで、市民活動や社会貢献活動とは何かを理解し、職務の中でその知識や経験を生かしていくことを目的とする「市民協働研修」が、昨年度に引き続き行われました。

市民活動とは具体的にどのようなことを行い、どのような課題があるのか。市職員としては実態がよく分からない中で、実際に市民活動団体と一緒に活動することで、様々な社会課題・地域課題に対して行政にはできない部分や行き届かない部分を、市民活動団体がどのようにフォローしているかについて「気づき」を得ることなどを、この研修の狙いとしています。

研修は入所1年目の職員と5年目の職員4～5人で班を形成し、それぞれ市民活動団体に関わりました。これによって、将来より良いまちづくりをしていくためには、行政職員として市民活動団体とどのように協力関係を築き、連携をしていけば良いかを学ぶ絶好の機会となりました。

研修は、右表に示す市民活動団体が市職員を受け入れて、昨年7月から10月まで断続的に行われました。そして研修成果をまとめ、12月に中央文化センターホールで開催した発表会で班ごとにプレゼンテーションを行いました。

本号では、各班が行った研修成果の発表内容をかいつまんでお知らせします。

※次ページ以降の研修成果は、発表会での登壇順に掲載しています。

	研修先団体	団体の活動内容	研修生
A班	稲城赤十字奉仕団	献血や救急救命等の赤十字活動を通じた社会奉仕	小林 裕明 植松 麻衣 山本 慧和 江藤 女唯
B班	いこねっと	稲城での子育てや暮らしが楽しくなる情報発信や交流	池田 仁美 長谷川 真人 横渡 学 麻生 周馬 谷口 萌菜美
C班	いなぎエコ・ミュージゼ	まち歩き等を通じた稲城の魅力発信	佐藤 令奈 藤田 拓磨 増田 悠花 篠崎 宙生
D班	街角科学クラブ稲城	科学の楽しさを伝えること等による学ぶ機会の提供	佐藤 友哉 丹澤 裕太郎 堆 幸華 上條 優
E班	インクルーシブフォレスト	すべての多様な人が受け入れられる居場所づくり	阪 恵利子 積山 佳 東 美穂 東末 恆大
F班	特定非営利活動法人iクラブ	生涯スポーツの場の提供による世代間交流や地域活性化	森西 カンナ 上原 心 若菜 将吾 中面 うらら
G班	いなぎ認知症家族の会オレンジi	認知症の人を介護する家族を支援	有尾 勇輝 戸井 健太 岡田 亮 福田 賢治

# いなぎエコ・ミュージゼ

【研 修 生】

藤田 拓磨・佐藤 令奈・増田 悠花・篠崎 宙生

## 研修受入れ団体の紹介

### 設立理念

稲城のまちを「まるごとミュージゼム」と捉え、地域の自然・歴史・文化等を知り、各種イベントを通して地域活性化を図る。

### 現在の主な活動

- ①大丸用水歩き・大丸用水路の紹介【5月】
- ②南山歩き【8月】
- ③ニュータウン歩き・モニュメント巡り【11月】

### 団体が目指す「これから」

#### アーバン・ビレッジとしての稲城

歴史的な遺産の残る場所に、現代的な建物や仕組みを組み込んでいく

- 例) ①大丸用水にオープンカフェ  
②軽い食事のできるレストラン  
③オープンガーデン

⇒コミュニティ・ビジネスの形で実現

※団体活動に若い担い手を招き、団体活動を継続していくことが必要

### 市の魅力を高めている団体の活動

まち歩き

→まち歩きを通して、今まで知らなかった稲城市の歴史を学びながら魅力を体験できる！

→稲城市への愛着がわき、住み続けたいと思ってもらえる！

→明るく元気で、知識も豊富な方々が、面白くて勉強



になる話をたくさんしてくれる！

## 研修生が学んだ「協働」

- ①市民と自治体と同じ視点を共有する  
→「生活している方の立場」に立つことで、市民の生活に根ざしたまちづくりの視点をもつことができる
- ②市民と行政職員の交流によって、それぞれが市についての理解を深める  
→まちづくり活動の手法は「市民」、まちに関する情報は「職員」
- ③市民と自治体が連携し、市の更なる魅力をつくりあげていく  
→市民、自治体がそれぞれ保有する能力やスキルを出し合い、協力することがアーバンビレッジ（程よく都会・程よく田舎）な稲城へとつながる

# インクルーシブフォレスト

【研 修 生】

積山 佳・阪 恵利子・東末 恆大・東 美穂

## 研修受入れ団体の紹介

### 設立理念

- ・稲城市で2021年から始まった地域コミュニティ
- ・障害のあるなしも関係なくお互いの違いを肯定し、一緒に遊び、育ちながら、実践の場所を目指している
- ・多様性を包み込む遊び場や居場所を自分たちから作っていく活動を行っている

### 現在の主な活動

- ・稲城市がインクルーシブな街になるよう、安心や仲間

を創り広げるためのコミュニティ活動を実践している  
・孤独や不安を減らす知識や情報を共有し、違いを越えて一緒に遊ぶ機会を作る

### 団体が目指す「これから」

#### インクルーシブな遊び場と仕事場の両輪で居場所づくりを進めて法人化を目指している

1人1人の特技や特性の「違い」を尊重し、それぞれの違いを認め合い、得意と苦手を補い合って「新しい生きやすさ」をつくり広げていこうとしている。

知識と悩みをシェアし合うことで知らないが故の不安や

# いなぎ認知症家族の会「オレンジi」

【研修生】

有尾 勇輝・福田 賢治・戸井 健太・岡田 亮

## 研修受入れ団体の紹介

### 活動趣旨

認知症介護家族へのピアサポート（仲間同士の助け合い）活動と講演会・勉強会を通じて、介護者に「関わり合い、仲間がいる」という安心感を育み、介護者を支援することを目的としている。

### 現在の主な活動

- ①会合：「スタバの会」「平尾ポーポーの木での食事会」「そばを食べよう！矢野口福寿庵」「Zoomの会」をそれぞれ月1回開催
- ②市内講演会・勉強会：年に4～5回開催
- ③明治学院大学・森本准教授によるプログラム
- ④Zoomによる勉強会

### 団体が目指す「これから」

**認知症介護家族が心身ともに健康で  
幸せに暮らせる社会へ**

### 目標に向けて

- ・継続的な介護者への支援⇒ピアサポート活動、講演会・勉強会
- ・コロナ禍での柔軟な活動態勢⇒webサイト、Zoom、YouTubeの活用、飲食を伴わない会合
- ・社会の意識変革⇒認知症本人に関わる家族介護者もまた当事者であるということ。認知症本人だけではなく、家族介護者への支援も必要

### 市の魅力を高めている団体の活動

- ◎認知症介護に関する情報発信 ⇒ 介護者として有益



な知識の獲得、認知症介護の周知

- ◎ピアサポート活動 ⇒ 一人一人の声に寄り添う安心感のあるコミュニティの形成
- ◎市内飲食店での食事会や認知症カフェにおける交流 ⇒ 地域の活性化
- ◎webサイトやZoom、YOUTUBEの活用 ⇒ デジタルデバイドの解消

## 研修生が学んだ「協働」

- |                |   |
|----------------|---|
| <b>団体</b>      | 一人一人の声に寄り添った柔軟なサポート                                 |
| <b>行政</b>      | 市民の声を集約した効果的な行政サービスの提供                              |
| <b>団体 + 行政</b> | 団体と行政がそれぞれの特性を活かしながら相互に協力しあい、誰もが暮らしやすい地域社会を実現していくこと |

### 市の魅力を高めている団体の活動

- ・障害児を持つ親もそうでない親もお互いの悩みを共有し、安心して友達を増やし自立していくための支援を行っている
- ・日野市の「仲田の森」プレーパークや児童発達支援施設「こどもでいさびすにいじろ」などの温かい「居場所」を稲城にもつくりたいと、親子共に支え合いながら稲城市の子育てを盛り上げている

## 研修生が学んだ「協働」

市民と市民、市民と行政が相互の理解と尊重、そしてお互いの信頼の上に立ち、対等・平等な関係を構築し、課題の発見や解決を図るものだと考えています。市民が安心して暮らし続けられるまちづくりを目指していきます！



否定をみんなで少しずつ減らしていき、自他共に肯定される未来を次世代に繋いでいく、希望と祈りを込めたプロジェクト。

# いこねっと

【研修生】

池田 仁美・長谷川 真人・横渡 学・麻生 周馬・谷口 萌菜美

## 研修受入れ団体の紹介

### 設立理念

稲城の「子育て」と「暮らし」がもっと楽しくなるように、つくる・つどろ・つながる・つたえるをキーワードに情報発信、活動を行う。

### 現在の主な活動

- ①月初に web サイト内にその月の市内イベントカレンダーの作成をする
- ②月に一回人が集まって情報交換をするイベントを開催する
- ③第二弾いなぎ子育てマップ～公園編～の完成を目指す

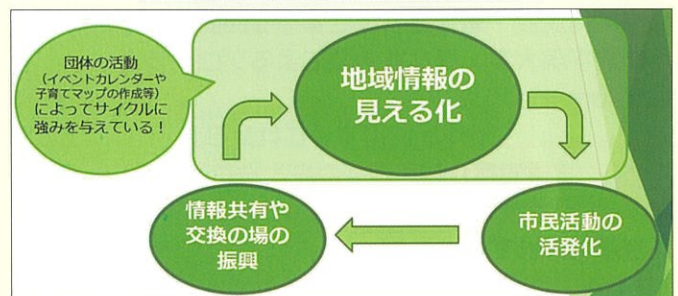
### 団体が目指す「これから」

**“孤育て”をなくせるような場づくりをしたい**  
**市民協働がしやすい仕組みづくりをしたい**

- ①必要な情報にアクセスしやすくしたい  
行政の情報が見えづらい、現在は手間をかけて加工をしているが、行政側の手間も考えると二度手間三度手間になっている。もっと扱いやすくみんなが苦労なく情報を手に入れられるようにしたい。
- ②行政と共に細かい目標や活動のゴール、目的を設定したい  
皆ボランティアとして活動しているが、反応が得られる場所が少なく、また自分たちだけで活動しているためゴールが見えないこともあり、モチベーションの維持に苦労している。



### 市の魅力を高めている団体の活動



▶活動全体を通して…サイクルの活性化が行われ、市の魅力を高めることにつながっている！

## 研修生が学んだ「協働」

行政と市民団体が対等な立場でお互いの特性を理解していき、共通する課題を連携、協力して、予防や解決することを目指していくこと！！

# 稲城市赤十字奉仕団

【研修生】

植松 麻衣・小林 裕明・山本 慧和・江藤 女唯

## 研修受入れ団体の紹介

### 赤十字団員の信条

1. すべての人びとのしあわせをねがい、陰の力となって、人びとに奉仕する。
1. 常にくふうして、人びとのために、よりよい奉仕ができるよう努める。
1. 身近な奉仕をひろげ、すべての人びとと手をつないで、世界の平和につくす。

### 現在の主な活動

- ①献血推進活動
- ②地域イベントでの赤十字 PR 活動
- ③救急法訓練の実施

### 団体が目指す「これから」

**身近な奉仕をひろげ、地域に根付かせる**

- ①これまでの活動を絶やすことなく、発展させていく  
継続的に活動するとともに、若い世代も参加できる団体になるために
- ②自助・共助の意識を持ち、安心安全な地域づくりを目指す

# 街角科学クラブ稲城

【研修生】

丹澤 裕太郎・佐藤 友哉・堆 幸華・上條 優

## 研修受入れ団体の紹介

### 活動趣旨

- 科学を学ぶ機会を提供したい
- 科学が楽しいものだという届けたい
- 子ども達の笑顔が見たい  
→ 楽しい科学を街角のみなさまにお伝えしたい

### 現在の主な活動

- ・稲城市での講座の他、ヘリコプターの飛ぶ仕組みなどを説明するチャレンジ科学 5回/年 など
- ・市内では令和3年度に1講座、令和4年度に2講座
- ・本郷児童館でも「もしも原子が見えたなら」を実施
- ・川崎市菅小学校でも講座を行っている

### 団体が目指す「これから」

#### 子ども達が楽しく平等に学ぶ機会を提供する

#### 子ども達が抱える問題って…？

- ・世帯ごとの収入差⇒もっと勉強したくても出来ない
- ・離婚による片親・共働き⇒家に1人は寂しい…
- ・不登校⇒無意識に大人に気を使ったり、家庭環境によって学力や精神的ケア等に差が出たり、辛い思いをしている子どもたちがいる

#### 今後の改善点

- ・受講数を増やしたい  
⇒多くの子どもたちに楽しく学ぶ場を提供したい
- ・受講料をなるべく安くしたい  
⇒子どもたちに気軽に来て欲しい



### 市の魅力を高めている団体の活動

稲城市の魅力とは…

- ・都市環境が整備され人口が増えつつある！
- ・市民の意識調査でも講座や教室など生涯学習の満足度が高い！  
⇒子どもの人口が増えつつある中、学ぶ機会を提供することはとても重要！！

## 研修生が学んだ「協働」



意見交換を通して、市への要望を確認

⇒同じことをする必要はない

各々の能力を活かして高めあう



行政による公助だけではなく、市民協働によるまちづくりに貢献する

- ③イトスギが根付くように、奉仕の精神を地域に根付かせる  
「人道、博愛」の精神を未来につなげていく

### 市の魅力を高めている団体の活動

- ①学校における三角巾包帯法、毛布搬送法講習などを通して、若い世代への働きかけ
- ②防災訓練への参加や炊き出し訓練、救急救命訓練などを



を通して、地域防災力を高めていく

- ③献血推進活動や裁縫奉仕活動などを通して、人道・博愛の精神を広げていく

## 研修生が学んだ「協働」

目的意識を共有化し、市民・団体・行政などがそれぞれの役割を果たし、地域課題を解決していくこと。

# 特定非営利活動法人 i クラブ

【研修生】

上原 心・森西 カンナ・若菜 将吾・中面 うらら

## 研修受入れ団体の紹介

### 設立理念

「だれでも、いつでも、どこでも」

子供からお年寄りまで生涯にわたってスポーツを楽しむ場を提供することにより、世代間交流の促進や地域の活性化を図る。

### 現在の主な活動

- ① 様々なスポーツ教室の開催（チア、ボルダリング、太極拳、グラウンドゴルフ、ヨガ etc）
- ② i クラブ交流会の開催
- ③ 健康講座の開催
- ④ i クラブだより「スマイル通信」の発行（年2回）

### 団体が目指す「これから」

#### 地域と協働し運動に親しむ場を広げる

- ① 関係団体との更なる連携
- ② 人員の確保・将来の担い手の育成
- ③ 運営の効率化

#### 市の魅力を高めている団体の活動

- ① 活動を通じた交流の活性化  
→ 親・子ども同士の盛んな交流  
→ 社会性の醸成
- ② 高齢者の健康増進



→ 高齢者の新たな居場所作り

→ 介護予防に貢献

- ③ 様々なスポーツ活動の推進  
→ ボルダリング教室の実施  
→ グラウンドゴルフの浸透

## 研修生が学んだ「協働」

団体と行政がそれぞれの得意分野を活かし、お互いの自立性を尊重しながら、共通の目的を達成するために支えあうこと！



## 市民協働研修 発表会に参加して

市民活動サポートセンターいなぎ 理事 小林 攻洋

昨年12月20日に開催された市人事課研修係主催の「市民協働研修発表会」に参加しました。

この研修は、以前はサポートセンターが主催し、講師を呼んで座学+市民と職員とによるグループワークという形式で行っていたのですが、昨年度からは市の人事課主催で以下のような方法で取り組むようになりました。

①研修対象の職員（入所5年目と1年目の職員）が4人1組でチームを作る。②サポートセンターが選んだ市民活動団体の現場に出向いて行って、活動を体験する。③それと団体のミッションや抱えている課題などについて、団体のメンバーと話し合う。④それを持ち帰って、自分たち（行政または職員個人として）ができることを具体的に話し合う。⑤自分たちが考える「市民協働」とは何かを導き出すというものです。

今回の発表会はその2回目でしたが、研修に参加した職員が、市民活動を自分のこととして捉えて話し合い、その成果を発表してくれていたことがとても印象的

残り、職員の本気度が伝わる素敵な内容の発表会でした。

この研修に参加した職員は最低でも3回は職場を離れることになり、日常業務に支障をきたすことになるのですが、それぞれの職場が快く職員を送り出してもらった結果、この研修が実施できた意味は大きかったと考えています。職員（職場も含めて）と市民とが相互に理解を深め、市民と行政による協働（市民協働）のまちづくりを進める上での大事な一歩になったと思うからです。

今回の研修対象者はまだ若い職員です。ですから、この研修だけで市民協働の重要性を十分認識出来たとは思っていません。しかしこの先何十年にもわたって、行政職員として稲城のまちづくりに関わっていくことになるわけですから、その時は今回の研修で導き出した自分たちが考えた「市民協働」のことを思い出しつつ、さらに実務の中でそれを補強し、市民と協働して素敵な稲城を作っていってほしいと期待しています。

# 「グループからチームへ」を開催!

実施日：令和5年2月20日（月）14時～15時30分

講師：大塚純氏（株式会社COEDAS代表取締役）

テーマ：グループからチームへ

～あなたの組織を強くする方法～

今年度のNPO講座は組織力の向上をテーマに「あなたの組織を強くする方法」と題し、株式会社COEDAS代表取締役で、コーチングの国際認定資格「PCC」を取得された大塚純氏を講師にお招きし、お話を伺いました。

まず、昨今の団体が抱える課題として「構成員の高齢化」と「世代間のギャップ」を取り上げてお話をされました。どうやって若い世代につないでいったら良いかという課題については「目的意識を同じくする」ことが最も大切なことであり、考え方や価値観が違う構成員が全て同じ目的を持つことは難しいため、皆が目指す方向について「ここなら良いだろう」という妥協点を見出すことも大切であるというお話をされました。

また、誰も正解を持っているわけではないので、構成員同士がお互いに寄り添いながら、やりたいことを理解し合える関係を作ることが重要であるということでした。

そして導き出された「うまくいくチーム運営」とは次の5項目でした。

- ①安心して話し合える組織環境である
- ②お互いに最低限の理解をし合える環境である
- ③何をすれば良いかが明確である



④個人の願いと組織の目標が関連のあるものである

⑤構成員がチームの目的に共感している

その他、メンバー同士が理解し合える最高の方法として、全員の名前を呼んで挨拶をすることや、気が合わない人を敬遠するのではなく、その人は何を見ているのか、またその人は何が見えていないのか、その人の願いは何かを聞き出して、少しでも分かり合えるように努力することが大切であるというお話でした。人間関係に対する基本的な理解を深めていくことが組織力向上の秘訣であり、この課題をクリアできた団体は最強の組織づくりができるという、基本的ではありながら最も大切なことを学びました。

お話の後の質疑応答では多くの質問が出て時間が足りず、閉会後も大塚氏を囲む人垣が長い間できていました。

## 今年度開催した 金曜サロンスペシャル

お話の要約はサポートセンターのwebサイトで、動画はYouTubeの「市民活動サポートセンターいなぎ」チャンネルで公開しておりますので、ご覧ください。

通算回数	開催日	タイトル	話し手	話し手の活動内容
第162回	4月1日	これからの東京ヴェルディと稲城市	中島健吾氏	東京ヴェルディ ホームタウン事業部
第163回	6月3日	地域貢献として今できること	兼田明彦氏	人材育成会社代表取締役など
第164回	7月1日	たけさんの Let's enjoy Pleasure Life!	渡辺毅彦氏	環境と暮らしのアドバイザー
第165回	9月2日	高齢者・障がい者と家族・友人のための旅の作り方	野村国康氏	高齢者・障がい者のための旅行会社経営
第166回	10月7日	再生可能エネルギーの地産地消	黒崎康秀氏	稲城グリーン化プロジェクト代表
第167回	11月4日	不登校児童・生徒の学習サポート	中河西慎平氏	不登校等の子どもの学習支援事業経営者
第168回	12月2日	池上、ホテルやめるってよ	池上博康氏	稲城市観光協会事務局長
第169回	1月13日	新年の集い	金曜サロンスペシャル話し手や利用者との懇親会	
第170回	2月3日	私と稲城そして関戸～自分育て・まち育て～	小林攻洋氏	市民活動サポートセンターいなぎ理事など
第171回	3月3日	南山地区における地域コミュニティの形成	川口侑宏氏	南山BASEの運営、地域イベント企画など

# 姉妹都市と相互の市民交流はじまる！ 姉妹友好都市交流協会訪問団がフォスターシティ市へ



稲城市姉妹友好都市交流協会の主催により、姉妹都市の米国フォスターシティ市訪問ツアーが2月4日から3泊5日の日程で行われ、11人の訪問団が渡米しました。

1日目はサンフランシスコ空港でバスに乗り換え、約20分でフォスターシティ市に到着。ホテルにチェックイン後、最初の訪問場所であるビーチ・パーク小学校では多くのフォスター市民が集まっていて、中学生の吹奏楽団が演奏で迎えてくれるなど、盛大な歓迎を受けました。

同校では同時通訳のヘッドホンを渡され、校長先生自ら校内を案内してくれました。中でも、レゴブロック専用の教室があったのには驚かされました。その後、小学生が学校生活等を説明してくれて、子ども達が描いた絵のほか真心のこもったたくさんのプレゼントをいただきました。

次に、市の中心部にあるラグーンに向かい、ボートに乗って市内の住宅地を見学。湾岸を埋め立ててラグーンを造成したこと、シリコンバレー北部にかけて所在するベイエリアの高級住宅街を眺めながら楽しいひと時を過ごしました。

初日の夜は、盛大な歓迎会を開いていただき、和やかな食事会となりました。昨年10月にフォスターシティ市の皆さんを稲城にお迎えした際の内容をかなり意識されていたようで、内容はほぼ同じような構成になっていました。そのこと一つをとっても、私たちの歓迎の仕方は間違っていないのだと安堵しました。

2日目は、レクリエーション・センターにて、フォスターシティ市民との交流会が行われました。最初に、稲城市の子どもたちとペンパルでつながっている14～17歳の子ども達がフォスターシティ市のまちや学校での生活を紹介してくれました。私たちからは、各自の夢や稲城市との交流で望むこと等を質問しましたが、どの子もしっかりとし



た考えを持ち、いきいきと発言していたのが印象的でした。

その後のプレゼント交換では、高橋市長にフルーミン市長から特注のストリート・サイン（道路名板）が渡されました。表に「Inagi City」とプリントされ、裏には「Takahashi BLVD」（高橋市長通り）と書かれてあり、高橋市長もとても感激されていました。

稲城市からのプレゼントは、高橋市長からフルーミン市長へ、画家であり絵手紙作家である大西邦子さんの作品で、日本の神話をモチーフにした掛け軸を贈りました。英語で説明しながら渡しましたが、フルーミン市長をはじめフォスターシティの皆さんは掛け軸にとっても興味をもっていたようです。

フォスターシティ市にはわずか2日間の滞在でしたが、一行は本当に心のこもったおもてなしを受け、最後は皆さんでバスを見送っていただきました。

昨年10月にフォスターシティ市民が稲城市を訪問し、今回は稲城市民がフォスターシティ市を訪問し、相互の市民交流が始まりました。本年7月には、フォスターシティ市からサッカーチームの少年少女が稲城を訪問する計画があり、現在準備を進めています。